

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小44) 長崎市立(銭座小)学校

1 教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成

2 学校経営方針

【合言葉】わたしが主人公、一人ひとりが主人公
～わたしがわたしをつくる わたしの学校生活をつくる～
【育てたい資質・能力】 やさしく 互いに認め合い、支え合う
かしこく 進んで学び、工夫する
たくましく 粘り強く、たくましく

3 重点目標

生徒指導 ○自己指導力を育てる
学習指導 ○教育実践の核となる授業実践 ○学び方のもちあじを生かす授業
特別活動 ○よりより自分、学級、学年、学校生活をつくる力を育てる
特別支援教育の充実 ○自立に向かう学びづくり
人権教育の充実 ○自他の人権を守るための意識、態度、実践行動力を育てる
健康教育 ○基本的生活習慣の確立○楽しい体育学習の工夫○ 安全指導

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	合言葉「わたしがわたしをつくる」を達成している	86%	93%	100%	児童・職員共に合言葉の「わたしが主人公」であることを意識しながら、主体的に学校生活に関わり合っていることが数値からうかがえる。 学校の雰囲気について保護者の評価が8ポイント上昇していることは、担任をはじめとして職員のきめ細やかな教育活動の営みのおかげであると感じる。
	教 育 目 標	合言葉「わたしが学校をつくる」を達成している	84%	94%	100%	
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	86%	86%	100%	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100%	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	84%	88%	100%	あいさつについては、保護者の評価があがったものの、児童と、保護者の評価と差がある。地区懇談会等でも話題になったが、三者で連携して「あ・は・は運動」をより推進してあいさつあふれる元気な学校にしていきたい。 平和教育、特別支援教育の項目がそれぞれ昨年度に比べて向上している。これは、本年度対話型授業の平和教育に取り組んだことが挙げられる。また、人権教育を基盤とした職員の意識の高さと、特別支援教育コーディネーターを中心とした、きめ細やかな特別支援教育の充実によるものだと考えられる。
		挨拶をよくしている	83%	74%	100%	
		「あ・は・は運動」を知っている(指導している)	76%	71%	90%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97%	82%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	91%	79%	100%	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	87%	97%	100%	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	88%	96%	100%	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97%	81%	100%	

確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	82%	97%	91%	「わかりやすい授業」については、三者ともに数値はかなり向上している。授業改善や「canva」などの新たなツールを活用した校内研修の充実が成果として表れていると感じる。読書に関しては、貸出冊数は昨年度よりも伸びているが、保護者の評価が低い。家族読書の推進やメディアの利用時間徹底など今後も育友会と協力して推進していく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94%	88%	100%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	89%	84%	100%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	81%	54%	100%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92%	89%	89%	
	読書	本に親しみを持っている	69%	50%	89%	
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	92%	83%	100%	食育とテレビ・ネットの項目が向上している。学校保健委員会において、児童と保護者向けに講師を招いて講演会を開いたこと、児童会で話し合いをもったことで、児童・保護者ともに意識の高まりがあったことが大きい。来年度は体力向上をテーマとした。生活習慣の定着も引き続き継続して取り組むようにする。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	81%	67%	90%	
		体力向上に努めている	71%	70%	100%	
	食育	食に関する教育活動を行っている	87%	72%	80%	
	テレビ・ネット	テレビ・ネットのルールを守れている。	84%	74%	100%	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	94%	97%	100%	学校便りや学級通信は定期的に発行されており、情報提供はおおむねできている。今年度は、「teturu」を活用し、さらなる情報発信に努めている。しかし、便利な反面、既読率があまりよくない。紙媒体との併用で情報の周知を図っていきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95%	91%	100%	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	67%	89%	100%	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100%	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	93%	91%	100%	三者ともに教育環境の評価は高い。職場環境については昨年度より16%向上している。様々な業務改善の成果と考える。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			91%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○児童・職員共に合言葉の「わたしが主人公」であることを意識しながら、主体的に学校生活に関わり合っていることが数値からうかがえる。学校の雰囲気について保護者の評価が向上していることは、担任をはじめとして職員のきめ細やかな教育活動の営みのおかげであると感じる。平和教育、特別支援教育の項目がそれぞれ昨年度に比べて向上している。これは、本年度対話型授業の平和教育に取り組んだことが挙げられる。また、人権教育を基盤とした職員の意識の高さと、特別支援教育コーディネーターを中心とした、きめ細やかな特別支援教育の充実によるものだと考えられる。メディアとの関わりについては大きな課題であったが、学校保健委員会で杉野 伸治先生に「子供の心と身体をつくる生活習慣」という演題で児童と保護者に講演をしていただいたこと、それを受けて児童会でメディアについてのルールを話し合ったことは、生活習慣を見直すよい機会となった。キャリア教育と読書についての評価が低い、学校での教育活動は充実しているが、家庭での子どもの姿として表れていないことが考えられる。家庭での姿につながるように更に育友会との連携を深め、改善に務めていく。

6 学校関係者評価

○子どもたちが明るい。よくあいさつをしてくれるようになった。物怖じせず一緒に活動してくれることがうれしい。ただ、朝はするが、下校のときはしっかりできないときがある。いつでも挨拶できる子どもに育ってほしい。

○高学年の責任感が強い。集団下校では、下級生の面倒を自分のことより優先してみる姿がすばらしかった。

○読書の数値が低い、学校での読書指導は充実しているが、家庭で子どもが読書する習慣がついていないのではない。家庭で読む時間がないのかもしれないが、啓発していくことが必要だ。

○防犯ブザーで遊んでいる子どもがいる。防犯ブザーが鳴ったときは、様子を見に出ているが、頻繁になっていると、有事の際に助けてもらえなくなる。気を付けてほしい。

○あはは運動については親の意識が低く感じられる。啓発活動を継続して行ってほしい。

○体力の項目が低い。充実を図ってほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○保護者や児童の数値が低い項目については、改めて学校の取組が十分かどうか見直し、来年度につなげていく必要がある。

○体力面については、次年度の学校保健委員会のテーマとし、取り組みを充実させていく。